



題字 藤原田 親

No. 971

2022/4/15

日中友好新聞

発行所
日本中国友好協会
〒111-0953
東京都台東区浅草橋2-2-3
浅草橋55番
電話 03(5830)3140(F)
FAX 03(5830)2141
http://www.jcf-cna.org.jp
E-mail:okayama@jcf-cna.org.jp
郵 10119-1-2117

日中友好協会
岡山支部
〒708-0034
岡山市北区下伊福
西町1-58 民主会館1F
TEL: FAX 0861 258-8406

日中友好協会
倉敷支部
〒713-8031
倉敷市福河町通32461-45
TEL: FAX 0861 411-7806

日中友好協会岡山支部ホームページ
<http://rizhongyouhao.jinaa.net/>
メールアドレス
nicchukayama@yahoo.co.jp



日中友好協会倉敷支部十五年史のこと

倉敷支部理事 平井昭夫

このたび「日中不再戦と友好のきずな」と題する倉敷支部の十五年間の歩みを綴った冊子が出来上がりました。その編集にたずさわった一人として感想を述べたいとおもいます。

六〇年安保闘争の高揚の名残が日本の労働運動をはじめ大衆運動にあり、多感な青年だった私も夜間高校に通いながら青年運動にも参加していきました。当時は社会主義国ソ連、キムイルソン率いる「解放された北朝鮮」、そして中国は「未来の国・社会主義の国」として憧れでもありました。「人間による人間の搾取のない社会」を目指す青年の気持ちにピッタリで、数々のロシア民謡や「統一列車は走る」「東京―北京」が愛唱歌でもありました。民医連病院の労組専従を出發に、医療労働運動に四〇年関わってきました。民医連病院では中国帰国者、八路軍経験者が周りにいて日中友好協会は意識しなかったものの、「日ソ協会」「日朝協会」が消滅していく中で日中友好協会倉敷支部の結成の話は極めて自然に受け止めることができました。

結成に携わったもの一人として、十五年の歩みをまとめて、後世につないでいくことが重要、とりわけ中心メンバーの高齢化が進み「この機を逃すと十五年の草の根の運動が埋もれてしまう」の思いで十五年史の発行を提起しました。

どこにでもある支部の一つですが倉敷らしい内容にしようと思ひ、内山完造さんのこと、佐藤医師の解放直後の中国訪問記、八路軍従軍看護婦のこと、幼少期を中国で過ごした人のことなどを第2部として記載しました。

ロシアのプーチンによるウクライナ侵攻と蛮行の数々を目の当たりにするとき、習近平政権が対台湾問題で力による制圧、核脅威による侵攻を懸念するのは思いすぎでしょうか。天安門事件、香港制圧を目の当たりにして不安で仕方ありません。中国の民主化は中国人民自らの課題ですが、こうしたとき草の根の市民友好組織「日中友好協会」は何ができるのか自問自答の毎日です。

中国帰国者問題写真と資料展

と き:4月26日(火)~28日(木)
じかん:4月26日(火)10:00~17:00
27日(水) 9:00~17:00
28日(木) 9:00~16:00

ところ:岡山市役所1階ロビー

【展示内容】

- 中国帰国者問題の歴史と現状
 - ① 岡山県満蒙開拓団とは
 - ② 中国帰国者の介護に希望の光を
 - ③ 日中国交回復50周年と内山完造
 - ④ 中国残留孤児国家賠償請求訴訟のあゆみ

主 催:日中友好協会岡山支部

連絡先:日中友好協会岡山支部事務局長 小林軍治

携帯 090-8240-2001

映画「再会の奈良」

近日中に、シネマクレール丸の内上で上映予定

近現代史研究者 青木康嘉

あらすじ

二〇〇五年、中国から陳ばあちゃんが、孫娘のような存在のシャオザーを頼って一人奈良にやって来る。中国残留孤児の養女・麗華を一九九四年に日本に帰したが、数年前から連絡が途絶え心配して探しに来たというのだ。麗華探しを始めた2人の前に、ほんの偶然の出会いでしかなかったはずの一雄が、元警察官だったという理由で麗華探しを手伝うと申し出る。奈良・御所を舞台に、言葉の壁を越えて不思議な縁で結ばれた二人のおかしくも心温まる旅が始まる。異国の地での新たな出会いを通して、果たして陳ばあちゃんは愛する娘との再会を果たせるのか。

監督・脚本 ポンフェイス プロデューサー 河瀬直美

主演:國村隼、秋山真太郎、永瀬正敏、ウー・イエンシユーら



映画会「わが青春尽きるとも〜
伊藤千代子の生涯」
4月17日(日)10:00~12:00
場所: 福祉交流プラザ旭東

近藤幸子さんのこと

近現代史研究者 青木康嘉

昨年末から七虎力開拓団鳥取郷出身の近藤幸子(九二歳)さんから聴き取りをした。現在倉敷市玉島に住んである。(写真は近藤一家が七虎力開拓団鳥取郷で写した。右セーラー服姿が幸子、左窓枠が俊子)

一九二九年一月二日近藤幸子は生まれた。一九四〇年満州第七次七虎力開拓団鳥取郷に家族全員で入植した。幸子はこの時一歳であった。七虎力尋常(のち国民)小学校へ編入した。広い畑で作業後、母親が翌年体調を崩し、明日佳木斯(ジャムス)診療所へ行くという日に死亡した。一九四二年父は母の遺骨をもつて弟の勇、昇、信も鳥取へ連れて帰り、帰国後父は再婚した。幸子は、菊水郷の小畑武志と結婚した姉の俊子の家から、七虎力国民学校高等科へ通った。小学校で吉備津郷の小畑経子(陸軍看護婦養成所へ入学後、陸軍看護婦となる。シベリア抑留されたが帰国した)と同級生で仲の良い親友だった。一つ先輩の北村三智子は、鳥取郷で隣の家の人で、きれいな人だった。(北村三智子は、佳木

斯の陸軍看護婦で、シベリア抑留中肺炎で死亡した)幸子は七虎力国民学校高等科卒業後、看護婦の進路も考えたが、手術の血を見て無理とあきらめ、佳木斯市の中心街にある満州電電公社佳木斯支店へ一九四四年四月に入社した。市内に女子寮があった。電話交換手として仕事をして、青春を謳歌した。幸子の手記には 何もわからず一生懸命でした。ブレストと言って耳と口にお話が出る様

にお客様に電話番号をお知らせします。夜勤もあり、眠くて大変な仕事でした」と書かれている。一九四五年八月九日未明、佳木斯の第十師団本部

地近くに空襲があった。佳木斯市内は大混乱した。(写真は、佳木斯電電公社時代の幸子) 佳木斯市内は三日三晩、軍施設などが焼却・破壊された。師団司令部も将校クラブもガソリンをまき、火をつけて回った。あちこちで火の手が上がり、佳木斯市街一帯が炎に包まれ、真っ赤に燃え上がった。その後、街も空も煙で真っ黒になった。

近藤幸子の手記から引き揚げ逃避行の様子を紹介する。 私たちは、電電公社の職員三〇人で、八月一三日佳木斯駅から最終避難列車に乗ることができました。佳木斯近辺の開拓団員も多く乗り込みました。最終避難列車は、綏化駅で半数を下車させた後、ハルビンに向かいました。八月一五日昼にハルビン駅構内で、玉音放送を聞いて終戦を知りました。傅家甸(フージャデン)の松花江にかかる鉄橋近くにあった電電公社ハルビン支店に行きました。」

幸子の姉近藤俊子は、一九二三年生まれ、二〇歳の時七虎力開拓団の菊水郷(兵庫県出身者)に住む小畑武志と結婚した。終戦時二人には、長女登棋子一歳八か月の子がいた。夫は七月に「根こそぎ召集」がきて戦地に赴いた。幸子は俊子の家から七虎力国民学校へ通学していた。前年に佳木斯電電公社の独自寮に移っていた。ソ連参戦後、七虎力開拓団菊水郷を先頭に逃避行が始まった。閻家屯(えんじや)駅から四〇五キロ離れた張家屯(チャンジャトン)で原住民からの襲撃にあった。羽が子よゆるして(日中出版一九八一

年出版)で井上よし子(菊水郷出身)は次のように書いている。八月一六日張家屯で襲撃にあい、約一〇時間応戦した。夕方大河団長が山の方(三角山)へ逃げると言って、丘へ上った。敵(現地農民)に見つかるから子どもを泣かすなと言われたが腹をすかせた子どもが泣くのを口で防ぐしかなかった。自決しようとの声が出て、子どもの首を絞め、銃剣で子どもの首を斬った。また、銃で子どもを撃った。女性たちも次は自分の番と思っていると小橋喜代治(団助役・経子の父)が来て 馬鹿! 犬死にするな。子どもの死を無駄にするな。子どもの仇を誰がとる」

逃げろ! 私らが威嚇射撃をしてひきつけておくからその間に逃げろ!」といった。この時二〇人ぐらいになっていた。昼間は山に隠れ、夜歩いた。依蘭(松花江沿岸の街)を目指して歩いた。八月二二日、夜寒いので焚火をして暖を取った。朝方、その明かりが目標となって突然銃撃があった。菊水郷では杉本さん親子、山根きみ子、小畑俊子、寺井定子、長島千代子、三宅千恵子、木下八重子、防長郷の石光久子、備前郷の藤原広己の一〇人が死亡した。」

七虎力開拓団に幸子が残っていたら、同じ運命に出会っていただろう。姉俊子と娘登棋子は張家屯で死亡した。

幸子は、終戦後ハルビン支店の屋上から 兵隊さんの乗ったトラックが何台もシベリア抑留させるため鉄橋を走っていた。皆で泣いて見送った」という。その頃、マンドリンと呼ばれる小銃を持ったソ連兵がいた。ソ連製戦車が街中を走り、戦争が終わった後のハルビンの街は大混乱していた。幸子はこの当時まだ一六歳の娘だった。(次号へ続く)

次回の新聞発送作業は 4月27日(水)午後1時半から 民主会館2階で行います。 前回お手伝いくださった方です。



飼田内井 犬小真竹坪